

## 「江東未来会議」の進め方

### 1. 江東未来会議の運営

#### (1) 運営のあり方

江東未来会議では参加者が自らの発言に責任を持ち、江東区の望ましい将来像とその実現のための取り組みについて、全区的な視点から実現可能性や優先性などを意識した現実的な議論を重ねながら、具体性のある提案を行います。

#### (2) 討議の方法

分科会での討議は、ワークショップ形式を中心に進めます。ワークショップとは、本来「何かを作り出すための作業場」を意味しています。いわゆる「会議」とは異なり、参加者が主体的に発言したり検討したりしながら、共同で1つのものを作り出していく手法です。このようなワークショップを活用し、参加者が自由に意見を出し合う中で、具体的で実現可能な江東区の将来像を明らかにしていきます。

#### (3) 討議のルール

江東未来会議を円滑かつ効率的に運営し、限られた検討機会を有効活用して充実した提言を行うために、以下の討議ルールを守って検討を進めます。

##### <江東未来会議・討議のルール>

1. 時間は有限であることを認識しましょう
2. 参加者の自由な発想を尊重しましょう
3. 区全体の視点で考えましょう
4. 少数意見を尊重しつつ、常に合意形成に努めましょう
5. 一度合意した内容は最大限に尊重し、共有しましょう

#### (4) 会議要旨の作成

江東未来会議の毎回の検討内容は、会議要旨としてとりまとめます。会議要旨は、次回の会議までに送付または席上配布いたします。

各会議の冒頭では、会議要旨をもとに前回のおさらいをします。

#### (5) その他

欠席される場合には、会議前日までに文書等で意見を提出することができます。提出された意見は、出席した委員の意見と同じように、当日の討議の検討対象とします。

## 2. 分科会の検討体制

### (1) 分科会の構成

各分科会は、それぞれ、江東未来会議参加者、コーディネーター、事務局（区職員・コンサルタント）によって構成します。

### (2) 各構成員の役割

#### 江東未来会議参加者

分科会の中心であり、参加者はそれぞれ対等な立場で、自らの知識・見識を総動員して全区的観点から現実的な議論を行い、新基本構想への提案づくりを行います。

#### コーディネーター

客観的、中立的な立場に立って議論の司会進行を行うとともに、専門的・多角的視点から参加者へのアドバイスを行い、魅力ある提案づくりに向けた議論のかじ取り役としての役割を担います。

#### 事務局（区職員・コンサルタント）

区職員、およびコンサルタントが各分科会の事務局となります。

コンサルタントは、会議の運営、提案づくりでの意思決定プロセス、手続きについて参加者の合意形成支援、日程調整を行います。

区職員は、会場の手配、議題の発送などの庶務を行います。

### 3 . 分科会の運営スケジュール

分科会は、平成19年10月～20年3月の間、月1回程度、計7回開催します。

前半期間は、各分野別の課題の抽出、整理を行った後、江東区がめざすべき、望ましい将来像とはどのような姿か、特に重視すべき要素とは何かについて合意形成を図ります。

後半期間は、分野別の将来像を設定するとともに、将来像の実現に向けて、区と区民は特に何に取り組むべきかについて合意形成を図り、分野別の提言書の作成を行います。

最後に、報告を広く区民に発表し周知するため、江東未来会議による報告発表会を開催します。

表 スケジュールの概要

回	検討事項	運営方法
第1回 (9/26)	ガイダンス 自己紹介	前半(30分)は、基本構想策定、及び江東未来会議のスケジュール・検討体制等に関するガイダンスを行います。後半(50分)は分科会に分かれて、メンバー間で自己紹介を行います。
第2回 (10月 中旬)	各分野に関する 現状と問題認識	各分野に関する現状と問題認識についてワークショップ形式の議論を行います。具体的には、5つに分かれた分野ごとに、江東区の魅力や問題点をカードに記入してもらい、模造紙等に貼り出して意見交換を行うことで、問題意識の共有化を図ります。
第3回 (11月 上旬)	個別テーマに関 する検討	前回の意見をテーマに沿って整理、分類した資料を事務局より提示し、テーマ(2~3程度)ごとの現状や問題認識について、改めて意見交換を行い、グループとして将来像を提示すべきテーマを選定します。また、選定テーマについて、見学すべき区内施設等を検討し、次回見学会の行程等を検討します。
第4回 (11月 下旬)	施設見学会	週末半日程度を利用し見学会を実施します。見学会は各グループの関心に基づき、まち歩きを通じた生活実感に基づく発想や提案が促進されるよう、徒歩と公共交通移動を原則としてグループ単位で実施します。
第5回 (12月 中旬)	目指すべき将来像と まちづくりの方向性 に関する検討	これまでの検討結果をとりまとめた資料を提示し、以下の項目内容の拡充を図り、グループとしての提言の方向性を明確にします。また、提言書の目次構成・フォーマットを提示しとりまとめたイメージを共有します。 <b>現状および問題認識</b> <b>江東区が目指すべき将来都市像とまちづくりの方向性</b> <b>区民と行政の役割分担や協働のあり方</b> <b>将来都市像を実現するためのアイデア事業</b>
第6回 (1月 下旬)	提言書のとりまとめ	分野ごとの提言書のとりまとめを行います。とりまとめにあたっては、新基本構想の検討に活用され、反映されることが期待できる内容、構成とし、読み手に区民の生き生きとしたアイデア、熱意が伝わる内容、また、その後続く基本構想策定への区民の関心を促進させるツールとして活用可能な内容とします。
第7回 (2月 下旬)	提言書最終確認	各グループの提言書を合冊した区民提言書の最終確認を行うとともに、発表会の運営シナリオの確認や、発表会のパネラーなどの分担等について検討します。
3月	発表会	<進行(案)>全体2時間30分、場所:江東区文化センター(仮) 提言の説明(20分) 提言内容に関するパネルディスカッション(60分)(休憩10分) パネルディスカッションの間に会場出席者から意見・質問用紙を募り、休憩時間中に整理する フロアトーク(パネラーと聴衆との意見交換)(60分)

#### 4．検討成果のイメージと活用方法

報告のとりまとめに際しては、多岐にわたる区の施策すべてについて論点を薄く広く論じ提言するのではなく、望ましい将来像の実現に向けて特に重点を置いて取り組むべき課題にターゲットを絞り込み、議論を掘り下げること、審議会での審議において有効に活用される提案づくりを行います。また、区と区民との協働を基本としたまちづくりをめざして、「区に望むこと」「区民・事業者にできること」の2つの視点を取り入れた提案づくりをめざします。

#### 5．江東未来会議の公開について

江東未来会議は以下の方法により公開します。

##### (1) 検討状況の発信

江東未来会議の検討状況は、江東区ホームページ等を通じて、随時、区民の皆さんにお知らせしていきます。ホームページには、会議要旨（発言者は特定できない形にします）や会議資料のほか、江東未来会議の雰囲気や検討状況を伝えるため、写真等を掲載することがあります。

##### (2) 会議の傍聴

江東未来会議の会場の状況に応じて可能な範囲で、傍聴ができるようにします。